

低線量肺がんCT検診を受診される方へ

—検査についての説明—

1. 肺がんCT検診の目的について

日本人の死因の第1位は悪性新生物（広義のがん）ですが、その中で肺がん死亡数が第1位と最も多く、肺がんを早期に発見する努力がなされています。そのなかで肺がんCT検診の目的は、肺がんを早期に発見することです。完治可能な時期の肺がんを見つけ、肺がんで死亡する人を減らすことが目的です。低線量肺がんCT検診は、従来の胸部X線による検診と比較して、より小さく、より早い時期の肺がんを発見できることが、国内外の研究で報告されています。

2. 肺がん CT 検診の方法

コンピュータ断層装置（CT）を使って検診を行います。寝台の上に仰向けに寝て、アナウンスにあわせて大きく息を吸っていただき、数秒間呼吸を停止している間に肺の全体を細かくスキャンします。得られたデータをコンピュータが計算して体の断面像が作られます。その画像を見て、異常がないかどうか診断します。肺がんCT検診では、通常の胸部CT検査で使用するものと同じCT装置を使用しますが、検診受診者の方の被ばくを最低限にする撮像技術で施行するため、極めて低い線量で検査を行います。

当院で行う肺がん CT 検診の特筆すべき点は、長い間がん診療に従事し、CT検査に精通した放射線診断専門医師とX線CT専門技師が肺がん検診CTの撮像から読影までに携わっているということです。この専門医師および専門技師は、いずれも国立がん研究センターでがん診療に従事し、2025年4月から当院に着任しました。

3. 肺がん CT 検診の利益と不利益

もし肺がんCT検診によって早期に病変が発見された場合、より早期に適切な治療を受けることができ、その肺がんによって命を奪われるようなことを防ぐ事ができる可能性があります。また、肺がん以外の呼吸器の病気が発見されることもあります。

喫煙習慣のある人では、3~6割の人に何らかの異常が見つかることが報告されています。ここでいう“異常”の9割以上は肺がんではありませんが、精密検査やしばらく期間をあけて再検査することが必要になることがあります。このような場合、検診を受けなければ感じる事がなかった「肺がんだったらどうしよう」という不安を感じる可能性があります。

CT検診で肺がんが発見され、早期のうちに手術で切除できたとしても、それが将来的にあなたの生命に影響をおよぼさないようなゆっくり成長する肺がんである可能性もあります。

肺がんCT検診は低線量といっても放射線被ばくがないわけではありません。しかしながら、CT検診を受けたことによって新たにがんが発生したという報告はありません。

肺がんCT検診によってすべての肺がんが早期に見つかるわけではありません。肺がんが存在する場所や、数か月で急速に成長する悪性度の高いがんでは、検出が困難な場合があります。また、小さいうちに発見できてもすでに転移を来しているようながんもあります。

4. 費用について

検診は、病気の方に必要な検査を行うものとは違いますので、その費用は自己負担となります。異常が発見されて精密検査が行われることになれば、通常の診療と同様に、一部が保険で支払われ一部が自己負担となります。この肺がん CT 検診は、1 回の検査あたり所定の費用を徴収させていただきます。

5. その他

検診では、検診結果の追跡調査などを行って集計し、その検診自体の精度の評価や検診体制の改良を行い、より精度の高い検診を行えるようにする必要があります。本検診によって得られた情報（年齢、喫煙状況、症状の有無、精密検査が行われた場合のその結果、画像データなど）は、今後の検診精度の向上を目的とした研究などに使用することがあります。当院以外の医療機関で精密検査を受けた場合は、その結果を問い合わせる場合があります。異常影の検出/診断プログラム開発、改良などの目的で、個人情報を匿名化した上で、共同研究施設に画像を提供する場合がありますが、本検診がより安全で精度の高い検診となるために必要ですのでご理解下さい。

6. 不明点があった場合の連絡先

ご不明な点がございましたら、茨城県立医療大学付属病院までご連絡をお願いいたします。

【お問合せ先】 電話 029-888-9213（画像診断受付）